

予測困難な社会を自立的に生きる子どもたちを育む小学校教育の創造

～学習や生活の出来事に対して「見方・考え方」を働かせ、
多様な他者と協働しながら主体的に学ぶ子どもの育成～

学習指導要領前文には、「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となること」が示されている。

また、令和8年度より施行される第3次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プランでは、「一人ひとりが輝き、共に未来をつくる」を理念に掲げ、「一步、踏み出す」「自分の幸せ みんなの豊かさ」「多様性を可能性へ」という価値観の共有を通して、子ども一人一人のウェルビーイングの実現をめざしている。これらの理念を実現するためには、子どもや地域の実態を踏まえ、育成をめざす資質・能力を明確にした教育課程を編成・実施するとともに、日常の授業改善を通して「主体的・対話的で深い学び」を着実に積み重ねていくことが求められる。その際、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習の実現が重要となる。社会の急激な変化に伴い、学校には、多様な背景やニーズをもつ子どもたちへの対応、安全・安心な学校づくり、DX化の推進や生成AIの適切な活用、教職員の働き方改革など、複合的な課題への組織的対応が求められている。こうした中で、教職員一人一人の専門性を高めるとともに、互いに学び合い支え合う研究・研修の在り方が、これまで以上に重要となっている。川崎市小学校教育研究会は、発足以来、研究と実践を積み重ね、川崎の小学校教育の充実・発展に寄与してきた。令和8年度も、学習指導要領およびかわさき教育プランの理念を踏まえ、日常の授業や学校運営に生きる研究を重視し、各研究会の実践の共有と発信を通して、川崎市小学校教育の質の向上を図っていく。

以上の考えに立ち、令和8年度は、次の重点のもと、小教研の研究・研修活動を推進する。

1. 研究と実践

(1) かわさき教育プランと学習指導要領の理念の実現に向けた教育課程編成と授業づくりの推進

① 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業研究・研修の充実

- ・育成をめざす資質・能力を明確にした授業実践を通して、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習の充実を図る。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善およびカリキュラム・マネジメントの推進を図る。

② 日常の授業に生きる指導と評価の研究・研修の充実

- ・学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の一体化を図り、児童の学びの過程や成長を適切に捉える評価の工夫を推進する。
- ・川崎市学習状況調査等の結果を活用し、授業改善や教育課程の充実につなげる。

③ 持続可能な社会の創り手を育成する教育の推進

- ・SDGs、脱炭素社会、Society5.0等を踏まえ、多様な他者と協働しながら課題を解決しようとする態度や資質・能力を育成する授業実践を推進し、その成果を発信する。

(2) かわさき GIGA スクール構想に基づく授業改善の推進

① かわさき GIGA スクール構想を踏まえた授業実践とその共有

- ・ ICT を効果的に活用し、児童一人一人の学びを支える授業改善を推進するとともに、実践の共有を通して研究の質を高める。
- ・ DX 化の視点を生かし、生成 AI の適切な活用や情報活用能力の育成についても研究を進める。

(3) 「川崎市教職員育成指標」に基づいた教職員の育成と研究・研修体制の構築

① 初任者をはじめとした各ステージの教職員のニーズに応じた研究・研修の工夫

② 働き方改革の視点を踏まえ、活動の重点化・スリム化を図り、参加しやすい研究会活動の実現

2. 運営の改善

(1) 創意工夫ある小教研活動の企画・運営

① 授業研究会・研修会の在り方の工夫

- ・ 日常の授業改善に生きる研究内容を重視するとともに、参加形態や方法を工夫し、教職員が参加しやすい研究会運営を推進する。

② 研究会相互の連携と情報共有の推進

- ・ 各研究会の研究内容や実践成果を効果的に共有し、相互に学び合う体制を整える。
- ・ ICT を活用した情報発信や資料共有を進め、小教研全体としての研究の質の向上を図る。

(2) 各学校の柔軟な教育課程編成を支える行事等の整理と連携

① 小教研に関連する全市的行事・連合行事等の在り方の検討

- ・ 各学校の教育課程編成や学校運営への影響を踏まえ、行事や研究会活動の内容・時期・方法について整理・見直しを行う。

② 研究会主催行事等の確認と改善

- ・ 研究会主催行事の目的や成果を明確にし、効率的かつ効果的な実施方法を検討する。

(3) かわさき GIGA スクール構想を踏まえた運営の工夫

① 教職員の GIGA 端末を活用した研究会・研修会・会議運営の推進

② DX 化の視点を生かした効率的な組織運営の推進

3. 関係諸機関との連携の検討と整理から、今後の社会を見据えた組織づくり

(1) 関係諸機関との連携・協力の充実

① 川崎市教育委員会事務局との連携の整理と充実

- ・ かわさき教育プランの理念および基本目標を踏まえ、児童に身に付けさせたい資質・能力の育成に向けた連携を推進する。
- ・ 働き方改革の視点から、連携事業の見直しやスリム化について検討する。

② 川崎市立小学校長会および関係団体との連携強化

- ・ 校長会活動方針との連動を図り、役割分担を明確にしなが、より効果的な研究・研修活動を推進する。
- ・ 神奈川県小学校教育研究会等との連携を通して、研究成果の共有と発信を進める。

(2) 持続可能な小教研組織の構築

① 今後の社会変化を見据えた組織体制の検討

② 役割の明確化と円滑な引き継ぎを意識した組織運営